



会津放射能情報センター

大阪報告会のご案内

福島「今」を聞きませんか？



子どものいのちをまもりたい！

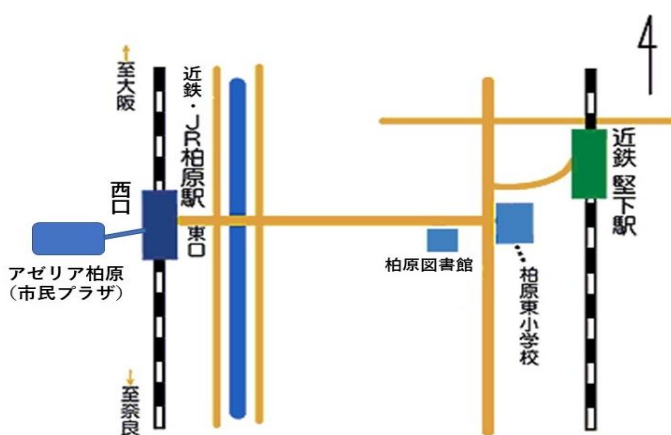
2011年3月11日、東北地方太平洋沖地震による災害、そして地震に伴う東京電力福島第一原子力発電所事故以来、その様々な被害の様子をわたしたちは注視してきました。会津放射能情報センターはいち早くその活動を始められ2011年5月以降、東北・会津の地よりわたしたちに様々な被災地の状況、被災の現状を発信してくださっています。会津放射能情報センター・代表の片岡輝美さんとスタッフの方が8年にわたる活動と現状報告を行なってくださいます。福島の今、放射能被害の今、わたしたちの今、いのちの今に共に耳を傾け、共に考えましょう。



報告会日程

2020年2月11日(火・休) 10時～12時

柏原市立市民プラザ アゼリア柏原6F 市民プラザ 大会議室



柏原駅の改札を出て右(西出口)。駅より歩道橋で直結。

- JR 大和路線 柏原駅・徒歩1分
- 近鉄道明寺線 柏原駅 徒歩1分
- 近鉄大阪線堅下駅 徒歩10分

アゼリアのアクセスマップ



協賛：
日本キリスト教団 久宝教会
社会福祉法人 日本コイノニア福祉会

福島の活動団体案内

会津放射能情報センター：<https://www.aizu-center.org>

子ども脱被ばく裁判：<http://datsuhibaku.blogspot.com>

モニタリングポストの継続配置を求める市民の会：<https://monitoringpost.blogspot.com>



「考えること 悩むことは いのちに向き合うこと

～ 福島からのメッセージ」

報告者 会津放射能情報センター 代表 片岡輝美

第1回と第3回の会場では測定担当スタッフからの報告もあります。

参加費 無料 ※会場カンパがあります。



■片岡輝美（かたおかてるみ）

福島県生まれ、会津若松市在住。2011年3月15日から2週間、被ばくを避けるために末息子、妹親子と三重県へ避難。帰還後、同年5月に放射能から子どものいのちを守る会・会津を、7月会津放射能情報センターを設立し代表となる。2014年8月より子ども脱被ばく裁判の会共同代表。2018年4月よりモニタリングポストの継続配置を求める市民の会共同代表。



「誠実にいのちに向き合うために…」 片岡 輝美

2011年3月11日、東日本大震災が発生し東京電力福島第一原子力発電所核事故が起きました。同日の午後7時過ぎに日本政府は「原子力緊急事態宣言」を発令。それは今でも解除されていません。核実験や広島長崎の原爆が核といのちは共存できないことを証明したにもかかわらず、この国は原子力政策に邁進し福島原発核事故を起こしました。先の見えない放射能と汚染水との闘いが、今日も原発事故現場では続いています。

今、福島で起きていることは放射能被害の「見えない化見せない化」です。汚染土は全国の公共事業に再利用、汚染水は海洋放出、避難者支援を打ち切って帰還を促す、小児甲状腺がん患者と強い疑いは200人を越えても、放射能の影響とは考えにくいと福島県は公表しました。目に見える被害や被害者は見えなくされ、まるで何事もなかったことにされようとしています。その目的は原発事故は起きて大丈夫との「安心神話」の構築と全国の原発再稼働です。

2012年1月、大阪教区は会津放射能情報センターへの山崎知行医師（和歌山県・上岩出診療所）派遣を開始。8年になろうとする今も、隔月に山崎医師は情報センターを訪れ、しゃべり場や個別相談で不安を抱える市民と共に悩み励ましてくださいます。その感謝を込めて福島の実状と取り組みを報告します。誠実にいのちに向き合うため、私たちは何ができるのかを共に考えましょう。

主催 会津放射能情報センター
後援 大阪教区・核問題特別委員会



報告会問合先

日本基督教団大阪教区事務所
TEL: 06-6761-8562
<uccj-osk@bfltsf.bforth.com>

山崎知行医師の福島県宮城県派遣募金へのご協力も、引き続きよろしく願いいたします。

送金先 郵便振替: 日本基督教団大阪教区 00910-1-27872
ゆうちょ銀行: 日本基督教団大阪教区事務所 記号14130 番号27183711



この人に訊く

健康相談会を開いています。2016年度からは2カ月に1回のペースになります。お子さんからおじいちゃん、おばあちゃんまで個人を対象にしたものです。その他にも山崎先生を開く懇談会を開催しています。

あともうお一人、猪苗代にお住まいの小林恒司先生という精神科の先生にも毎月来ていただいて、心と体の健康相談会を開催しています。活動日は水・木・金曜日。4月からは月曜日と土曜日が増えます。

わかりました。時間は午前10時から午後4時までです。個人相談は予約制ですが、おしゃべりをする懇談会は「いつでも、どんなでもどうぞ」という形を取っています。

あと「しゃべり場」というのがあるんですけど、2011年5月から毎月開いています。みんなが悩みを打ち明けたり、不安を語り合ったり、情報を交換したり、支え合ったりという集いなんです。

派を超えたお寺さんとか、もちろん個人の方からも全国からたくさん支援をいただいています。

今後、新たな活動は？
片岡 子どもたちの健康を見守り、不安や病気に対して支えていくことが必要になるかも知れないと思います。

皆さんのご近所に「環境放射能測定器リアルタイム線量計」があったと思いますが、「あれ、いつの間にかなくなっている」と気づいた方はいるでしょうか。

昨年12月、毎日散歩で数値を確認する線量計がオフになっているのに気づいた男性が、会津若松市に問い合わせました。すると市内9カ所の線量計が撤去され、避難解除地域へ移転されることになりました。

会津放射能情報センター

代表

片岡輝美さん

③

そこに居続けられ、ぼ体への影響がゼロとはいえないわけですから、甲状腺の異常は原発事故の影響ではないと言われても、私たちは納得できません。

そのほか、保養プログラムとあって、リフレッシュキャンプみたいな形で、子どもたちを北海道や神戸へ連れていく活動があります。3月末にも神戸に連れていきました。

問題はそういう子どもたちが本当にフォロースタッフされているのかという点です。「まさか、わが子が」と、原発事故以降、心配していたことがわが身に起こったショックはとても大きいわけです。その方たちのフォローは大丈夫なんでしょうか。そういう方にはセンターを訪問すればいいんだと思ってもらいたいと考えています。そうした不安を一つ一つ取り除き、事実と向き合うために、自分の体調を管理していただきたいと思っています。

「今後、原発は不測の事態には絶対なりません」と断言。さらに「そもそも線量計は多すぎると思っていたし、住民に危機意識はなくなっていると思った」と続けたのです。もちろん会場は「そんなことを言ってる方が一の事態に責任が取れるのか」、「原発に事故はない」と言うが、こんな事態になっただろう、「これほどの参加者がいるというのは、心配している住民がいるという証拠だ」と、騒然となりました。



活動資金は？
片岡 会費と協賛金です。中でも協賛金の割合が非常に大きいですね。全国の教会や市民団体、宗